

仙建協と市民みんなの情報マガジン

フォーサイト

F O R E S I G H T

巻頭特集

通巻60号記念

フォーサイト&仙台市の これまでの歩み

撮影2016年10月

撮影1990年11月

【サブ特集】

若手技術者6人に聞く われらが担う！ 仙台と建設業の未来

〔仙台建設業協会・会員の社会貢献活動〕

育てられた地域に恩返し

【シリーズ】現場紹介

上谷刈浄化センター急速ろ過棟ほか

耐震補強及び消毒槽改築工事(赤坂建設株)

地震に負けない浄化センターに

2016 No. 60



02

巻頭特集

おかげさまで60号

フォーサイト&仙台市のこれまでの歩み

06

サブ特集

若手技術者6人に聞く

われらが担う! 仙台と建設業の未来

10

仙台建設業協会・会員の社会貢献活動

育てられた地域に恩返し

12

フォーサイト・ドクター

「古くて新しい感染症」 — 結核について —

13

シリーズ 現場紹介

上谷刈浄化センター急速ろ過棟ほか耐震補強及び消毒槽改築工事(赤坂建設株式会社)

地震に負けない浄化センターに

14

トピックス

16

仙建協だより

がんばろう東北!
がんばろう仙台!

※仙建協は、仙台の復興に全力で挑みます。



フォーサイトって何?

仙台市の地域建設業者で組織する仙台建設業協会(仙建協)が発行する無料の地域情報マガジンです。本来の意味は「先見の明」で、「仙建協」との韻を踏んでおり、仙台の未来を見通す内容とする願いが込められています。



フォーサイト&仙台市の これまでの 歩み

おかげさまで 60号

FORESIGHT
60th
ANNIVERSARY

1990年6月に仙台建設業協会の
広報誌として創刊した「ふぉーさいと」
は、今号をもって通巻60号の節目を迎
えました。60という数字は人間でい
えば還暦。生まれた年の干支（えと）に
一回りするということで、転じて「生
まれ変わり」の意味合いもあるこのこ
とです。その由来にならって今号より
心機一転、「フォーサイト」にリニュー
アルすることとなりました。思えばこ
の26年間、仙台市の歴史はまさに激動
ともいえるものでした。仙台建設業協
会が発足した1989年、わが国11番
目の政令指定都市に移行した仙台市に
は、青葉・宮城野・若林・太白・泉の
五つの区が設置され、大都市としての
行政がスタート。89万人だった人口は
10年後の99年に100万人を突破する
とともに、高さ100mを超える超高
層ビルが林立するなど急成長を遂げま
した。そうした中で2011年3月11
日、戦後最悪の東日本大震災が発生。
それまで積み上げてきたものが全て一
変した地震と津波の凄まじさに、あら
ためて自然災害の恐ろしさやせい弱な
基盤の上に都市が成り立っていたこと
を痛感させられました。仙台建設業協
会をはじめとする建設業界は、震災直
後から復旧に向けた作業を日夜進め、
そうした働きもあって震災から5年9
カ月が過ぎたこんにちでは、仙台市に
おいて復興事業がほぼ完了となってい
ます。昨年12月には、この写真に見ら
れる地下鉄東西線が開通するなど、未
来に向け仙台市のまちづくりは復興か
ら新たなステージを迎えています。

歩んだ仙台市の26年～



J R 仙台駅前に「A E R (アエル)」オープン



ふぉーざいと10号

1990

ふぉーざいと創刊

仙台市の人口が100万人を突破

地下鉄南北線が泉中央まで延伸

1992年7月15日



'96

'92



地下鉄八乙女-泉中央間延伸に合わせて、新市街地整備が進められた泉中央副都心整備が完成(右上は仙台市主催による八乙女-泉中央間開通式典の様子)

'99

ふぉーざいと20号



2000

ふぉーざいと30号



'97



仙台スタジアム(現・ユアテックスタジアム仙台)が完成

せんだいメディアテークが開館

'01



フォーサイトが創刊されたのは1990年6月。年3回のペースで発行されてきたため、10号は93年7月、20号は96年12月、30号は2000年4月、40号は03年8月と、ほぼ3～4年ごとに節目を迎えてきました。この後、07年12月に50号を発刊し、発行ペースも年2回、年1回となったため、60号は50号から9年の時を経ての発行となりました。これまで、フォーサイトが歩んできた道のりは、26年の長きにわたります。この間、仙台市でもさまざまな動きがありました。92年に泉中央まで延伸開業した地下鉄は、昨年12月には市内2本目となる東西線の開業を迎えました。03年春号(39号)の巻頭特集では「2003年地下鉄の旅」と題して、東西線の計画を取り上げています。当時は、はるか未来の出来事と思えた東西線も現実のものとなり、時の流れを実感するとともに、フォーサイトが仙台市の足跡を伝え続けてきたことも事実として残ります。東日本大震災という不幸な出来事もありましたが、そうした苦難を乗り越えて前に進むことも、いずれは歴史の1ページになります。これからも仙台市が積み重ねる歴史に、フォーサイトは関わっていきます。どのような未来が待っているのか、楽しみです。

~~ フォーサイトと共に



'11



2011年3月11日

東日本大震災発生

仙台建設業協会は震災直後から早期復旧に向けた作業を進めてきました



宮城野区文化センター開館

'12



'14



あすと長町地区に仙台市立病院が移転オープン

フォーサイト60号



'10

東北一の高さを誇る仙台トラストタワーがオープン



ふぉーさいと50号

'07



'11

地下鉄東西線開業

2015年12月6日



'08

AER南側に「仙台マークワン」がオープン

東北楽天ゴールデンイーグルス 誕生

'05



楽天イーグルスの新たな本拠地となった宮城球場(現・楽天Koboスタジアム宮城。写真は2006年4月撮影)。下は勾当台公園市民広場で開かれた結団式の様子



'03

ふぉーさいと40号



'05

'15



'16

60年前の

仙台市を見てみよう

フォーサイト“60”号にかけて、今から60年前ごろの仙台市内の様子を見てみましょう。仙台市戦災復興記念館に保管されている古い仙台市内の写真の中からピックアップしてみました。

仙台駅前について、1957(昭和32)年ごろ(右)と、現在の様子(下)を比較してみました。右写真の右側に見える8階建ての大きなビルは仙台駅前のデパートとして長く親しまれてきた丸光(現・さくらの野百貨店)です。また、古くからの市民にとっては懐かしい駅前の歓迎塔や仙台市電(1976年廃止)の車両も写っています。



1957年ごろの仙台駅前(写真提供:仙台市戦災復興記念館)



1959年に仙台市役所で開かれた市制70周年式典の様子(写真提供:仙台市戦災復興記念館)

手前の右から左にかけて斜めに横切る道路は愛宕上杉通り。中央奥に見える大きなビルは仙台市立病院で、現在は第一生命タワービルが建っています。その右手の塔のある白い建物が昔の仙台市役所(左)です。



1959年10月ごろの中央通り・東五番丁付近

(写真提供:仙台市戦災復興記念館)

国勢調査による仙台市の人口を比較してみると、1955年と比べ2015年の人口は2.6倍に増えています。現在の仙台市域は1955年当時、1市4村で構成されていました。このうち、生出村は翌56年4月1日に仙台市へ編入。残る3村も秋保町、宮城町、泉町→泉市と変遷し、87～88年にかけて仙台市と合併しました。

1955年国勢調査(人)		2015年国勢調査(人)	
仙台市	375,844	仙台市	1,082,185
秋保村	5,284		
生出村	4,453		
宮城村	15,316		
泉村	13,878		
合計	414,775		

※ちなみに

30年前はこんな感じですよ



現在の青葉区役所から東二番丁通りを望んだ様子(1984年ごろ)。クランク状の道路形式が特徴でした。

日本では、少子高齢化が引き起こすさまざまな問題が顕在化しつつあります。特に建設業は、ベテランの引退と若手入職者の不足が相まって、深刻な担い手不足に直面しています。

総務省の労働力調査によると、2015年時点で65歳以上の建設業就業者は12・8割の64万人。55歳以上を含めると34割の170万人となり、今後10数年の間で3人に1人が引退を余儀なくされる計算です。一

われらが担う！ 仙台と建設業の未来

方、新規学卒者の入職数はここ数年4万人前後で推移しており、若手の離職者も多い状況。今後、担い手不足の傾向が強まることは確実なのです。

こうした現状を重くみて、行政機関や建設業界は担い手確保・育成に向けた取り組みを本格化させています。特筆すべきなのは、15年6月に改正品確法、改正建設業法、改正公共工事入札契約適正化法のいわゆる「担い手3法」が施行されたことです。この法律は、公共工事の品質確保に不可欠な担い手の中長期的な育成・確保を目的に位

置付けた上で、若年者や女性の入職促進などを明記しました。今後は法律の趣旨を踏まえながら、就業者の待遇改善や休日の拡大といった取り組みが徐々に進んでいくこ

若手 女性 技術者 6人に聞く



体（日本建設業連合会、全国建設業協会、全国中小建設業協会、建設産業専門団体連合会、全国建設産業団体連合会）が、5年間に建設業界で働く女性の倍増を目指す

の登用を促進するためのモデル工事を14年から試行。15年度からは、同局港湾空港部で女性技術者の現場配置を総合評価方式で加点する女性活躍型総合評価方式を試行するなど、女性技術者の活用を評価する入札方式の導入を進めています。東北各県の動きを見ると、青森県では15年度当初予算に女性建設技術者活き活き事業費を確保し、15年10月には「女性建設技術者ネットワーク会議」を設立。吉村美栄子知事のもと「やまがたウーマノミクス」を推進する山形県でも、建設業における女性活躍推進策を検討しているほか、宮城県は15年度に策定した「新・みやぎ建設産業振興プラン」の中に、女性登用促進モデル工場の導入を盛り込みました。

建設業界では、日本建設業連合会が15年3月に建設業の長期ビジョンをまとめ、その中で25年度までに若者を中心に90万人、女性は20万人の入職を目標に掲げました。トイレや更衣室をはじめとした現場事務所環境改善など、女性が働きやすい現場環境の整備に向けて、会員企業の取り組みをフォローアップする試みも始めています。地元業界では、宮城県建設業協会が、建設産業に従事する女性のネットワークとして「宮城建設女性の会2015」を16年2月に発足させ、女性が活躍できる環境整備やイメージアップに取り組んでいます。

とになりそうです。若者の絶対数が減少する中で担い手を確保するためには、女性の活躍も欠かせません。14年8月には国土交通省と建設業5団

「もつと女性が活躍できる建設業行動計画」を共同で策定し、官民挙げてさまざまな取り組みをスタートさせました。国土省東北地方整備局では、女性技術者

仙台建設業協会の会員企業でも、男性・女性を問わず多くの若手技術者が活躍しています。今回はその中から将来を嘱望される6人に焦点を当て、建設業界を志したきっかけ、仕事の楽しさ・悩み、将来の夢などを話してもらいました。

(株)橋本店

土木部工事課主任

伊藤 和輝さん

いとう かずき

復興の進捗ぶりを現場で実感できる仕事

―建設の仕事を選んだきっかけは

小さいころから理数系が得意だったので、漠然と自分には工学の道が合っているのかなと思っていました。大学進学に当たっては、機械や電子といった分野も選択肢にはありましたが、将来は形に残る仕事がしたいという思いに加え、祖父が建設の仕事に携わっていたと聞いていたこともあり、土木を学びました。

卒業後、いったんは東京で別の建設会社に就職したのですが、その約1年後に東日本大震災が発生し、生まれ育った宮城県東松島市をはじめとした地元の大被害の大きさに衝撃を受けました。自分が建設の仕事を通じて被災地の復旧・復興を手伝いたいという思いで、橋本店に入社させていただきました。

―これまで担当してきた仕事は

入社後、初めて配属されたのは宮城県の防波堤災害復旧の現場で、その後も一貫して復旧・復興に携わってきました。最近まで担当していた名取地区農地災害復旧・区画整理は、津波に見舞われた農地からがれきなどを取り除いた上で、ふたたび営農を再開できるようにする工事。側溝などコンクリート2次製品の不足に悩まされましたが、会社にバックアップしていただき、何とか完成させることができました。ことし初めて営農が再開できるようになったと聞き、とてもうれしく思っています。

―どんなときに仕事のやりがいを感じますか

復興の進展ぶりを現場で実感できることです。また、現場をマネジメントする中で、工程などが計画通りに進んだときには何とも言えない達成感があります。現場には年配の職人さんが多いのですが、何か問題点が発生した際に、こうした方々が長年にわ

たり培ってきた経験を生かしながら一緒に対処していくことも、この仕事の大きな魅力の一つです。

―今後の目標は何ですか

現在、1級土木施工管理技士とコンクリート技士の資格を持っているのですが、次はコンクリート診断士の資格を取得したいと考えています。将来的には、コンクリート構造物のメンテナンスに関する仕事が増えてくると思うので、そのときに自分が先頭に立って仕事ができるようになりたいのです。早く現場の全てを任せられる存在となって、先輩から教えていただいたことを若い人たちに伝えていくことも大切だと思っています。



1987年4月29日生まれ。2010年東北学院大学工学部環境建設工学科を卒業し、12年橋本店に入社。

上司は「二見の

常務取締役土木部長

常前 隆弘さん



復旧・復興に向けて地元のために働きたいという意思を持っており、何事にも物おじせず真摯に考える姿勢がとて

も素晴らしいと思います。同じ年代でも中心的な役割を果たしているようです。今後は経験を重ねながら、これまで蓄えた知識を知恵に変え、さまざまな考え方を学んでほしい。さらに自分が得意な分野を見つけて、それを仕事に生かせるよう一層の研鑽を期待しています。会社としても、持続的な経営を大前提としてながら、待遇改善や休日拡大などに取り組んでいます。今後も若者にとって魅力ある企業、業界になるよう努力していくつもりです。

(株)深松組

建築部 佐々木 晴花さん

ささき はな

結婚、出産後もずっと働き続けたい

―建設の仕事を選んだきっかけは

両親が自営で内装の仕事をしており、小さいころから現場に連れて行ってもらいました。その影響に加え、兄が仙台工業高等学校で建設関係を学んでいたこともあって、同校に進みました。深松組に入社したきっかけは、高校の先生から「こういう会社があるよ」と紹介を受けたことです。面接には社長をはじめとした幹部の方々がおられ、とても緊張しました。あらかじめ「女性技術者は少ない」と聞かされましたが、パソコンの前に座っているだけでなく、体を動かす仕事がしたいと思い、働かせていただくことにしました。

―現在の仕事は

現場の写真撮影が主な仕事です。建築にはさまざまな職種があるため、写真を撮影する際にも何をどのように撮ればいいのか悩むことが多いです。打設するコンクリートを発注したとき、数量が少なく、追加分が届くまで職人さんを待たせてしまったことなど、仕事での失敗は数えきれません(笑)。

―どんなときに仕事のやりがいを感じますか

お父さんやお爺さんと同じ年代の職人さんたちと色々な会話ができるのが魅力です。また、何もないところに建物が出来上がり、お客さんから感謝されることはうれしい。造り上げた建物を誰かが使ってくれ、それが何十年も残っていくことは、とてもやりがいのある仕事だと思います。

―今後の目標は何ですか

まだ2年目ということで、分からないことがたくさんあります。覚えなければならぬことをしっかりと覚えて、まずは写真撮影だけでも完璧にしようと考えています。資格を取得できる年齢になったら、

資格取得にも挑戦したい。できる仕事が今より増えるからです。ことし後輩が1人入ってきましたし、将来的には現場で働く女性も増えると思うので、先輩として仕事のやり方などを教えていけるような存在になりたいです。

―現場で働く中で大変なことはありますか

高校も男性ばかりだったので、男性中心の現場に慣れるのも早く、女性だから特に大変ということは見当たりません。できれば、ずっと建設の仕事が続けていきたいので、結婚や出産の後でも働き続けられるようにしてほしいです。

―将来の夢は

はつきりした夢はありませんが、仕事を続けていく中で、自分のやりたいことを見つけていきたいと思っています。

1996年4月19日生まれ。2014年仙台市立仙台工業高等学校を卒業後、深松組に入社。

上司は「二見の

建築部工事長

佐々木 秀一さん



現場は8時からの朝礼で1日が始まりですが、佐々木さんは7時前に来て、事務所の

清掃、業者さんの作業内容、指示・伝達事項、自らの仕事の確認などに率先して真面目に取り組んでくれています。今後は、建物の構造ごとに違う仕事の流れを学び、さらに向上心を持って仕事に臨んでほしいと思います。建築士、建築施工管理技士などの資格を取得した上で、将来は女性ならではの視点を生かしながら、現場の監理技術者として活躍することを期待しています。会社としても、女性が長く働き続けられる環境を構築する必要があると考えています。



上司、同僚、後輩から信頼される存在に

―建設の仕事をしたきっかけは

高校生のとき、住宅の悩みをリフォームで解決するテレビ番組の『大改造!!劇的ビフォーアフター』を見て、感動を覚えました。私も建物を建てる仕事が見たいと思い、東北工業大学工学部建築学科で学びました。その中で、建築にもさまざまな仕事があることを知りましたが、せっかくなら建物を完成まで見届けられる仕事に就きたいと考え、阿部和工務店に入社させていただきました。

―現在、携わっている業務は

入社早々は、何が分からないのか分からない状態でした。入社3年目の現在は、現場で朝礼の司会を務めるほか、危険行動が行われていないかなどをチェックする業務に携わっています。施工図に沿った施工が行われているかを確認することも重要な仕事ですが、今はまだ経験が不足しているため、分からないことはとにかく現場所長などに教えを受けるように心がけています。来年には1級建築施工管理技士試験にチャレンジできるようにするので、早く合格して独り立ちできるようにしたいです。

―苦労している点がありますか

例えば、現場の写真撮影にもさまざまな決まりがあり、それを間違えると現場に迷惑をかけることになり責任重大なので大変だと感じています。また、入社前には施工管理という仕事は、スマートフォンでクリ



ー的なイメージがあったのですが、実際の現場では汗をかく仕事も多く、必ずしも想像通りではありませんでした(笑)。まだまだ分からないこと

だらけですが、まず自分で考えみて、それを所長に話してみても、違っている部分の指導を受けるようにしています。

―どんなところに仕事のやりがいを感じますか

この仕事は、発注者(施主)、設計者、職人さん、会社の上司、先輩、同僚、地域住民など、さまざまな人と話をする機会があります。私は人と話をするのが好きなので、多くの人とコミュニケーションをとることがとても楽しいです。建物が完成を迎えたときの達成感は何物にも代えがたく、それまでの苦労が全て吹き飛ばぐらいです。工事に携わった災害公営住宅で表彰を受けた際にも「頑張つて良かった」と思いました。

―将来の夢は

仕事を安心して任せられる人材、そして上司、同僚からからはもちろん、下の人からも慕われる存在になりたいです。将来、結婚して自分の子どもが生まれたとき、自分が携わった建物を「自分が建てた」と誇りをもって子どもに伝えられるような仕事をしたいですね。

1991年11月10日生まれ。2014年に東北工業大学工学部建築学科を卒業し、阿部和工務店に入社。

上司はこう見る

取締役 建築部長

石塚 友博さん



仕事ぶりは真面目で、受け答えははつきりしており、同年代のまとめ役を務めてくれています。会社の行事や飲み

会などには積極的に参加し、後輩に仕事の段取りなどをきめ細かく教えているようです。コミュニケーションが欠かせない建設の仕事には向いていると思います。ただし、施工図の作成能力などはまだまだ未熟で修業が必要。まずは必要な資格を取得して、将来は会社を支える存在になると期待しています。

子育てしながらの仕事、さまざまな支えに感謝

―建設の仕事をしたきっかけは

子供のころから折り紙や夏休みの工作を楽しんでいて、ものづくりに興味がありました。その流れでいつの間にか建築という仕事を職業にしたいと考えようになりました。大学では建築を学ぶ中で、設計と施工管理のどちらの道に進むのかを考えたところ、トータルで建物づくりに関わることができると、施工管理が好きだと感じて、建設業界に飛び込むことに決めました。

―現在の業務は

入社当初は何も分からず図面の見方から教わる状態でした。現在は9年間の実務経験を踏まえ、積算業務や発注者との打ち合わせや職人さんとのやりとりを重ねながら、工事を進めています。

―この仕事のやりがいは

更地だったところに建物が建ったり、リフォームで全く違うものになったりと、変化が目に見えて分かるのが楽しいです。最も印象深いのは初めて現場代理人を務めた現場で、これまでの知識に加え、先輩や職人さんからアドバイスを受けながら取り組みました。他の現場もそうですか、完成したときの達成感は大きかったです。

―女性技術者としての苦労はありますか

女性だからとは意識していません。私の場合は、家族の支えもありましたが、産休に入ったときも復帰するときも、会社に柔軟な対応をしていただき、子どもが突然体調を崩して、急に休まなければならぬときにもしつかり対応してもらったことは本当に助かりました。だからこそ、これまで仕事を続けることができたのだと思います。

―将来の目標は

漠然としています。いろいろな人の支えがあって仕事を続けられてきたことに感謝しています。この気持ちを忘れず、家族に恥じないよう仕事に取り組みたいです。また、工法や材料が進化する中、常に向上心を持って勉強しながら、お客さまに感動してもらえる仕事していきたいと思っています。

1984年11月21日生まれ。2007年東北工業大学建築学科を卒業後、サイト工業に入社。

上司はこう見る

取締役 副社長

齋藤 法幸さん



人材を確保・育成するために、まず待遇を改善することが重要と考えています。加えて子育てを支援するため、将来的には社内に託児所などを設置する必要も感じています。休日を増やすためには、発注者に余裕を持った工期を設定していただくことも大切だと思います。

建築事業部部長

磯村 義裕さん



当社として初の女性技術者であり、とても頑張ってもらっています。現場によっては決まった休みが取得できないこともあります。非常に助かっています。また明るい笑顔によって、現場がスムーズに進んでいます。今後は、さらに経験を重ねて自ら適性を見出し、やりたいことができるように学んでほしいです。



皆成建設株

建設部建築課

小笠原 佳那さん

おがさわら かな

将来の夢は、現場を引っ張る所長

建設業界に入ったきっかけは

小学校1年生のころ、生まれ育った青森の実家を新築しました。現場で大工さんが一生懸命に仕事している様子が記憶に残っています。その影響からか、建物が建つのが好きになりました。大学は建築系への進学を志望していましたが、最終的には岩手大学建設環境工学科で土木を学ぶことになりました。大学2年生のとき、東日本大震災が発生し、壊れた防潮堤やその復旧の様子を見て、土木が社会のために役立っていることをあらためて実感しました。

就職に当たっては、やはり幼いころからの夢である建築関係の仕事がしたいと思いました。就職サイトで当社を見つけ、会社説明会のとき、社長も参加してくれていて雰囲気がよく良かったため、入社させていただこうと思いました。

これまでどんな仕事を経験してきましたか

入社当初に配属された現場でも、現在の上司に指導していただきました。まず現場に慣れることが肝心ということで墨出しなどの基本的な作業に従事しました。入社3年目となった現在の現場は、ちょうど建物の引き渡しが終わったところで、これから竣工図の作成が待ち構えています。最初は楽しいという気持ちでしたが、できること、やらなければならないことが増えてきて、仕事を覚えれば覚えるほど責任が出てくると感じています。

苦勞している点はありませんか

小さい失敗はありすぎて数えきれないぐらい(笑)。最近の失敗は、手すりを取り付ける際に下地を入れるのを忘れ、やり直しとなったことです。手戻りによつて、余分な時間とコストをかけてしまったと反省しています。こうしたことを繰り返さない



からも、少しずつ前に進んでいるという感じですが、

仕事をしたい点は何ですか

建物に最初から最後まで携わることができるとはとてもやりがいがあります。現場にはさまざまな職人さんがいて、その道一筋のプロフェッショナルと接することで刺激を受けることも多いです。こうした方々をまとめなければならぬことは大変ですが、面白く優しい人たちばかりで、感謝しています。

女性として現場で働くことについては

今は女性だから大変と感じる部分はありますが、重いものを持たなければならぬことはありません。ただ、他社で働はじめ周りが手伝ってくださいます。ただ、他社で働く女性の話をうかがうと、結婚、出産などを機に辞めていく人も多いということなので、その点に不安があります。

将来の夢は

私は結婚、出産してもなるべくなら仕事を続けたいと考えています。また女性の現場所長さんには出会ったことがないので、将来的には現場を引っ張る存在になりたいです。女性の後輩も入ってきたため、人に頼られる、そしてみんなから一緒に働きたいと思われる所長になれるよう努力していきます。

1988年11月18日生まれ。2014年に岩手大学工学部建設環境工学科を卒業し、皆成建設に入社。

上司は「う見の

建築部建築課長

神田 広昭さん



日々成長していると感じます。その速度をアップして一日でも早く一人前になりたいです。現場で分からないことは、聞く前にまず自分で考えることが重要。聞かれたことを教えるのは簡単ですが、それでは成長につながりません。女性が入ってきたことで現場は活性化しています。特にきめ細かい目配りが大切な建築の仕事は女性に向いていると思いますので、将来はぜひ現場所長になってほしいです。

日建工業株

東北営業所

斉藤 直幸さん

さいとう なおゆき

「ありがとう」の言葉で、建設の仕事誇りに

建設業界に入ったきっかけは

高校時代に通学していた国道45号で道路工事が始まり、傷んだ道路がみるみるきれいに出来上がっていました。その様子を見て、建設業ってどんな仕事なんだろうと興味を持ち、就職先として建設業界を目指すようになりました。実はその工事を施工していたのが、現在勤務している日建工業だったんです。

現在の業務は

入社1年目と2年目は現場代理人の補助員として、仕事のイロハを学ばせていただきました。3年目からは現場代理人として現場を切り盛りしており、9月まで道路舗装の現場を担当していました。今後の目標は、主任技術者を務めることができる2級土木施工管理技士の資格を取得することです。受検に必要な実務経験が得られる来年に向けて、今のうちから準備を進めておかなければならないと考えています。

仕事で苦勞している点

現場代理人を務めていると、自分の祖父ほど歳が離れた職人さんに指示をしなければならぬことがあります。そのとき、どんな言葉遣いをすればいいのか、どのようにコミュニケーションをとればいいのか、難しいと感じています。また、ある現場では基準高を間違えて、その部分をやり直したことがありました。こうした失敗を教訓としながら、次の現場に取り組んでいきたいと考えています。



「どんなところにやりがいを感じますか

地域住民の方から「立派な道路を造ってくれて、ありがとう」と感謝の言葉を投げ掛けられたとき、「この仕事をやっていて良かった」という誇りと達成感を感じます。

将来の目標は

今は先輩に叱られ、教えられてばかり。だからこそ、10年後、20年後には自分が先輩に仕事のやり方などをしっかりと伝え、周りの人や顧客から信頼が得られる存在になりたいです。

1994年4月7日生まれ。2012年宮城県立米谷工業高等学校(現登米総合産業高校)を卒業後、日建工業に入社。

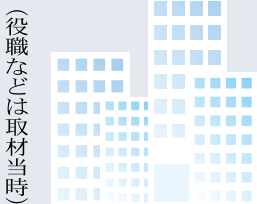
上司は「う見の

取締役東北営業所所長

砂子澤 金市さん



明るく素直な性格で、みんなから可愛がられています。ただ、先輩からは「同じことを何回も聞くな」と叱られることが多いようです。舗装の仕事は単純なように見えて、実は奥が深いもの。新たな工法なども次々に開発されてきているので、もう少し専門書などを読んで勉強してほしい。また、なんといっても来年に2級土木施工管理技士の資格を取って、本当の意味で独り立ちすることが最も重要です。将来は、会社の中核として社員を引っ張る存在になってほしい、なれるはずだと考えています。



(役職などは取材当時)



広瀬川1万人プロジェクト（名取市閩上海岸）

育てられた地域に恩返し

道路清掃・お祭り支援など

仙台建設業協会・会員の社会貢献活動

工事現場の周辺で作業服姿の人たちが火ばさみを手にごみを拾う。そんな姿をよく見かけませんか。これは社会貢献活動の一環として建設会社が自主的に行っているものですが、社会貢献活動というのは道路清掃ばかりではなく、あまり知られていないさまざまなケースがあります。ここでは仙台建設業協会やその会員企業がどんなことに取り組んでいるのかを紹介しましょう。

もともと建設業界が社会貢献活動に熱心に取り組むようになったのは、建設業に対する一般のイメージが悪かったことが大きな理由です。きつい、汚い、危険。いわゆる3Kは建設業の代名詞として使われていました。しかし悪いイメージが強いと、道路や橋、港湾などを整備する公共事業を支え、自然災害が発生した時には率先して応急復旧に駆けつける建設業界の本来の役割にも目を向けられません。こうした悪いイメージを払拭し、国民の信頼を取り戻そうという強い意志が社会貢献活動の広がりを後押ししました。

具体的にはどんな活動を進めているのでしょうか。仙建協が会員企業を対象に行ったアンケート結果を見てみましょう。

環境・美化活動が5割以上

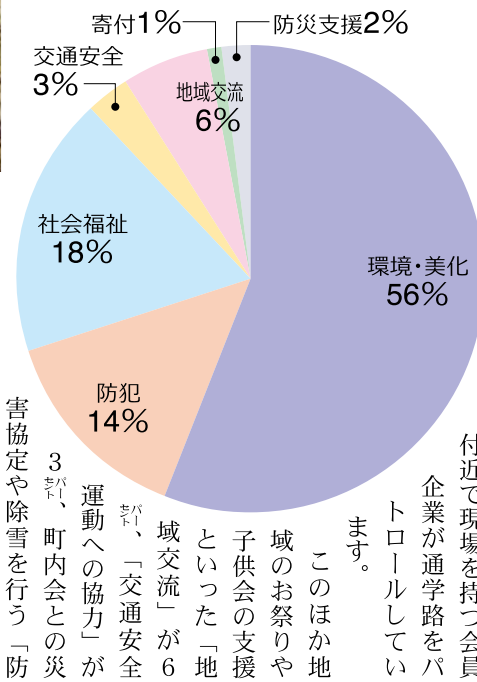
分類分けすると、まず最も多かったのが

「環境・美化活動」で56割を占めました。道路清掃や除草などは会社周辺だけでなく、工事現場ごとに手軽に始められるので取り組む企業が多いものと思われれます。また、広瀬川流域を1年に2回、一斉に清掃する「広瀬川1万人プロジェクト」に参加する企業が増えてきました。清掃活動をきっかけに広瀬川に関心を持ってもらおうと始めたこの企画には当初から仙建協の会員が積極的に参加していますが、ことしは仙建協が団体として初めて正式に参加しました。次に多かったのは18割を占めた「社会福祉」です。宮城県建設業協会と日本赤十字社が献血に関する支援協定を締結していて、毎年春と秋に実施。会社や協会の呼び掛けに応じて毎回多くの人が献血を行っています。地域の犯罪を未然に防ぐ「防犯パトロール」は14割に上りました。このほとんどが仙建協が力を入れる「子ども110番パトロール」に対応し、小中学校の登下校時間に、



岩沼市の海岸防災林再生に協力

〔仙建協会員の社会貢献活動〕



個々の会員企業だけではなく仙台建設業協会としても社会貢献活動を積極的に行っています。

先ほども触れましたが、「広瀬川1万人プロジェクト」第22回広瀬川流域一斉清掃」が9月に行われ、ことは仙台建設業協会が団体として初めて参加。会員各社から約70人が、宮城県名取市閑上海岸の会場で清掃し、参加者らは力を合わせて、約1時間かけて丁寧にごみを回収しました。

活動を終えて河合会長は、「これまで建設業の仕事を通じた地域貢献を進めてきましたが、近年は清掃などで積極的に市民と一緒に活動しようという風潮が広がっています。今後は、地域の皆さんとともに、目に見える地域貢献に取り組みたいと考えています」と話していました。

10月には宮城県建設業協会主催の「みんな

広瀬川一斉清掃に団体として初参加

付近で現場を持つ会員企業が通学路をパトロールしています。

このほか地域の祭りや子供会の支援といった「地域交流」が6割、「交通安全」が3割、「交通安全害協定や除雪を行う「防災支援」が2割、「非営利団体への寄付」が1割となっており、さまざまな形での社会貢献活動が広がっていることが分かります。

「交通安全害協定や除雪を行う「防災支援」が2割、「非営利団体への寄付」が1割となっており、さまざまな形での社会貢献活動が広がっていることが分かります。



こども病院の夏祭りを支援する青年会のメンバー

なでつくる3Aの防災林」植樹式に参加し、津波で被災した岩沼市の海岸防災林再生に向け、クロマツの苗木を1000本植樹しました。これは宮建協が県と岩沼市との間で締結した協定に基づいて行っているもので、今後5年間で岩沼市の海岸0.8kmを対象に4000本植樹する計画です。

また、仙台建設業青年会は毎年、宮城県立こども病院で夏祭り運営を支援し、病気と闘う子どもたちに笑顔を届けています。12回目となることは、出店の運営に加え、打ち上げ花火に協賛。同病院の林富理事長は「夏祭りは子どもたちが楽しみにしている大切なイベント。花火の打ち上げにも協賛していただき、一層にぎやかな企画にすることができてうれしい」と感謝していました。

「地域に育てられた地元企業として地域に恩返しをしたい」。仙台建設業協会と会員企業はこんな想いで、社会貢献事業に積極的に取り組んでいます。

「古くて新しい感染症」 結核について

かつては死に至る「亡国病」

結核は、結核菌による感染症で、咳や痰が続き、最終的には咯血（かっけつ）するなどして体が衰弱し、死に至りますので、明治時代から昭和20年代までの長い間「亡国病」と恐れられた病気です。しかし、非常に優れた抗結核薬が開発されたことや、国を挙げて予防や健診に取り組むなどして、死亡率は往時の100分の1以下にまで激減しています。

新しい結核の出現

一方で、人々の関心の低下や多剤耐性結核など新しいタイプの結核の出現から、結核罹患者

の減少は鈍化しています。1999年には「結核緊急事態宣言」

が出され、まだまだ身近で油断できない感染症と考えられています。日本は今でも比較的結核が多い国とされ、毎年約2万人が新たに結核を発症し、約2000人が結核で亡くなっています。そういった意味で、結核は「古くて新しい感染症」なのです。結核菌は感染しても全員が発症する訳ではありませんが、体内に入り込み増殖すると、その増殖した臓器によって、肺結核、腸結核、腎結核などを引き起こします。日本では主に肺の内部で増える「肺結核」が多数を占めています。結核を発症した患者は、ある程度症状が進むと、体内で増殖した結核菌を体の外

に排出するようになり、ほかの人に結核をうつす危険も生じてきます。

感染・発症を防ぐには

結核は、高齢者や過重な労働で体力的に弱っている方、病気で免疫を抑えるようなお薬を飲んでいてる方などが特に発症しやすく、風邪かな？と思っても長く症状が続くときは、早急に病院で血液検査やレントゲン検査を受けることが望まれます。

結核の治療は内服治療が中心です。病状や経過によりですが、6カ月かそれ以上の期間、薬を飲んで治します。そこで重要な

薬に耐性を持つことがあり、再

「結核を疑う症状」

- ・咳（せき）が2週間以上続く
- ・痰（たん）がでる
- ・痰に血が混ざる
- ・体がだるい
- ・微熱が続く

「治療と予防法」

- ・医師が指示した薬を、指示された期間飲み続ける！
- ・栄養バランスのよい食事、十分な睡眠、適度な運動で予防する！
- ・不規則な生活や喫煙を避ける！

び薬を飲み始めても効きにくくなって、その後の治療が非常に難しくなるからです。なお、結核と診断されて治療を受ける場合は公費負担の制度が設けられています。保健所のサポートを受けられるので、安心して治療を受けてください。

のは、医師が指示した薬を、指示された期間、きちんと飲み続けることです。症状が消えたからといって自分の判断で、途中で薬をやめてしまうと結核菌が薬に耐性を持つことがあり、再

結核の対策としては、結核菌の感染を防ぐこともですが、発症を防ぐことが重要です。そのために栄養バランスのよい食事、十分な睡眠、適度な運動などを心掛けて、体の免疫力を高めておくのが基本です。普段から、夜更かしなどの不規則な生活や喫煙をせずに、健康的な生活を送みましょう。

関雅文

（せき まさみみ）

東北医科薬科大学病院感染症内科 准教授（病院教授）

■経歴
1994年 長崎大学医学部卒業。同第二内科、米國ネブラスカ大学客員研究員、ミシガン大学客員教員、大阪大学副部長を経て2015年から東北薬科大学病院呼吸器内科病院教授、2016年東北医科薬科大学病院感染症内科診療科長、日本呼吸器学会の医療介護関連肺炎ガイドラインや日本感染症学会・化学療法学会の呼吸器感染症ガイドライン作成などで委員、事務局を務めた。2010年日本感染症学会北里柴三郎賞受賞。

FORESIGHT DOCTOR



会員の現場紹介

赤坂建設(株)

地震に負けない 浄化センターに

上谷刈浄化センター急速ろ過棟ほか 耐震補強及び消毒槽改築工事

皆さんは、浄化センターをご存知でしょうか？ 家庭で排出される汚水や雨水を処理し、きれいな水に消毒して海や川に放流する生活に欠かせない施設が浄化センターです。仙台市には5カ所の浄化センターがあり、皆さんの水環境を守っています。

このうち、泉ヒレジヤ中山などの団地を担当する上谷刈浄化センター（仙台市泉区）で、汚水や雨水を処理し、きれいな水にする急速ろ過棟の耐震補強・消毒槽新設補強工事と、消毒槽の改築工事が進んでいます。施工しているのは、赤坂建設（仙台市泉区）です。

上谷刈浄化センターは、2011年の東日本大震災では被害を受け、急速ろ過棟も、設備配管や放流管が一部損傷するなどの被害を受けました。

今回の耐震化工事では、震災以上の規模の地震にも耐えられるように、老朽化した施設の壁や床を補強する耐震工事も、不要施設の解体、汚水の最終処理で使用する古い消毒槽の解体と、新しい消毒槽の建設を進めています。また、工事中もセンターは稼働しているため、工事箇所を避けるパイプ管の設置も赤坂建設で担当しています。現場では、赤坂建設のほか、機械設備や電気設備を整備する企業も作業しています。それぞれの企業がお互いの作業を報告し合うなど、連携して工事の完成を目指さなくてはなりません。

そのため、月に一度、仙台市の職員も交えた打ち合わせを開き、翌月の工事内容を事前に確認。さらに週に1度、現場内で、施工業者と浄化センター職員による打ち合わせを開き、互いに一週間の作業内容を報告しています。



清水土木部長

浄化センターの様子。手前は新しい消毒槽の鉄筋

現場を見てみると、新しい消毒槽のコンクリートの骨組みを組み立てる鉄筋職人、コンクリートを流し込む型枠をつくる型枠職人、といった作業員が活躍しています。

また、補強のために、壁や床に「アンカー」というボルトを打ち込む作業員なども働いています。

こうした工事を進める上で重要なのが、作業員を守るための安全対策です。毎朝、

KY（危険予知）運動に取り組み、日々の作業員の健康状態の確認に加え、夏場の熱中症対策グッズの配布など、一人一人の安全確保に力を入れています。

工事を担当する清水督浩土木部長は、「生活に密着している施設。運転している中で作業ですので、センターの運用に支障がないよう慎重に工事を進めています」と決意を示しています。

こうした狭い現場もあり、企業ごとの連携が重要



杜の都れんが下水道がオープン

仙台市に11月、10年前の建設当時のまま、現在も現役で使用している貴重な下水道施設を見学できる施設「杜の都れんが下水道」がオープンしました。



れんが下水道の内部

同施設は、西公園S.L広場に隣接して入口を整備。二つのらせん階段で地下8メートルまで降り、地下通路で下水道まで到達。天井を耐圧ガラスでトップライトとし、地上から地下施設を見下ろせるようになっていきます。

仙台市の下水道は、東京、大阪に続いて、国内3番目に整備着手したという長い歴史を持つ貴重な遺産です。今でも現役で使用していることが評価され、2010年度の土木学会選奨土木遺産に認定されています。

公開するのは、青葉区の国分町通り付近と西公園付近を結ぶ定禅寺通幹線の全長約550メートルのうち、分水施設や放流路など約40メートルの区間です。建設の際は、仙台市出身の東京帝国大学教授・中島鋭治氏が設計指導し、1900年に完成。現在も雨水などが浄化センターへ流れ、大雨の際は広瀬川に放流しています。

また、この下水幹線は、2010年に公開した仙台市在住の小説家、伊坂幸太郎氏原作の映画「ゴールデンランバー」で、堺雅人氏演じる主人公が逃走する場面の撮影に使われました。

施設見学は無料。問い合わせは、仙台市建設局経営企画課（☎022-214-8812）まで。

「森のこども園」が開園

学校法人・宮城学院（小林信夫理事長）が建設を進めてきた宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」が11月に開園しました。

世界的な建築家である伊東豊雄氏が設計を担当し、四方を緑に囲まれた敷地環境を生かして、森の爽やかな風と香りが通り抜けるイメージをデザインしました。それを実現するために、杉の単板をつなぎ合わせて、格子状に何層にも重ね合わせて、柔らかな曲面をつくり出す屋根構造を採用したのが最大の特徴となっています。

この施設は、ことし9月に迎えた宮城学院創立130周年に伴う主要記念事業の一つとして計画。社会的ニーズの高い幼稚園教育と保育園を一体とする幼保連携型認定こども園として仙台市青葉区桜ヶ丘9の1の1地内の同キャンパス北側に整備されました。

施設規模は木造平屋建て、延べ998・84平方メートル。施工に当たっては、複雑な屋根構造を実現するため、実物大のモックアップ（模型）を造り、実証しながら慎重に施工したということです。

設計を担当した伊東豊雄氏は「この園舎で子どもたちが元気に成長していくことを楽しみにしています。また、珍しい屋根構造のため、施工は大変だったと思いますが想像以上のものが出来た」と話しています。



森のこども園

津波避難施設の建設進む

大規模地震の津波被害を最小限に食い止めようと、仙台市沿岸部で津波避難施設の整備が進められています。

仙台建設業協会の会員ら地元企業が建設を担当し、2017年3月までに全て完成する予定です。

施設は鉄骨造2階建てのタワー型、消防団施設に併設するビル型、学校の屋外階段の3種類があり、収容人数は地域によって異なりますが、100人から400人となっています。

鉄骨造2階建てのタワー型はすでに完成している中野5丁目、港南公園、井土の3カ所に、南蒲生地区、新浜地区、三本塚北部地区を加えた6カ所で整備。ビル型は消防団施設に併設するもので、岡田バス出張所跡地、笹屋敷地区、三本塚南部



中野5丁目のタワー型施設

地区、種次地区、二木地区の5カ所に建設します。屋外階段は高砂中学校と岡田小学校に設置しました。

タワー型とビル型には車いすでの避難を想定してスロープを設置するのが特徴です。また、屋内避難スペースは避難時のストレスに配慮し、内部空間をアコーディオンカーテンで仕切ることができ、食糧、水、毛布といった備蓄品を備えます。

パルコ2が誕生



パルコ2

JR仙台駅前の新しいシンボルとなる「パルコ2」が、7月1日にオープンしました。ファッショビル大手のパルコ（東京都渋谷区）が建設を進めていたもので、仙台市内では2店舗目となります。

パルコ2は、JR仙台駅北口に位置する「仙台パルコ」から南西へ約300メートル向かったイービーズの北側隣接地に、コンクリート充填鋼管造地下2階地上9階建て、延べ2万4383平方メートルの規模で建設されました。内部には東北初出店となる38店舗を含む全84店舗が入居し、1階はレストラン街、2〜5階までは

ファッションショップを中心に構成。

また、6〜9階にはシネマコンプレックスのT O H Oシネマズ仙台が入居しています。これによつて、2006年に仙台東宝劇場が閉館して以来、10年ぶりに仙台駅前に映画館が復活しました。このほか、地下部分は駐輪場となっています。

白を主体にモザイクをイメージさせるガラス面など、仙台駅西口というロケーションを十分に意識した外観が大きな特徴です。仙台市のみならず、東北地方のファッション文化発信地として、連日にぎわいを見せています。

エスパル東館オープン／本館もリニューアル



東館と東西自由通路

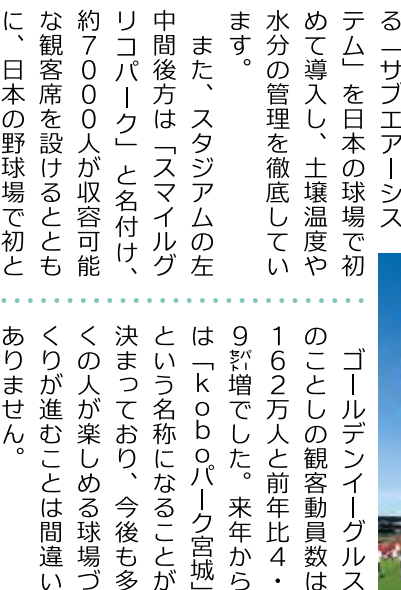
仙台駅に併設する商業施設「エスパル仙台」に、東館が3月にオープンしました。商業スペースには東北初出店となる店舗を含め、計82店舗をそろえています。また、内装には宮城県産材などを使用していることも特徴です。

エスパル東館は、仙台駅東口に鉄骨造・鉄筋コンクリート造地上6階、地下1階、延べ3万9700平方メートルの規模で建設。店舗面積は1万0300平方メートルとなっています。店内は「Forest Park」杜の公園」をテーマに、ガーデンやギャラリー、カフェや工房などをそろえました。東北初や仙台初、新規開業の店舗が約9割を占めています。内装は、化粧室やレストスペースに秋保石を使ったのはじめ、各所に宮城県産材や伝統工芸を使用。商業スペースを中心とした

物販ゾーンのほか、サービズゾーンとしてクリニックモールと認可保育園も営業しました。

また、東館のオープンに合わせて、既存の本館2階と3階も一部リニューアルし、東館を合わせた店舗面積は従来の1.5倍に拡大。東館と合わせると、計115店舗が新しく営業開始したことになります。併せて東西自由通路も拡張整備し、改札を設けて駅と直結した造りとなりました。自由通路は「杜の陽だまりガレリア」という愛称が付けられました。

「夢のボールパーク」に進化



楽天koboスタジアム宮城（仙台市）は、言わずと知れたプロ野球チーム・東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地。そのスタジアムが「夢のボールパーク」として急速な進化を遂げています。

まず内野・外野フェアグラウンドの部分は人工芝から天然芝に張り替えられました。これにより選手のプレー負担軽減につながったほか、観客にとっても自然を感じながら観戦できるようになりました。芝生の維持管理に当たっては、アメリカのプロスポーツで実績がある「サブエアシステム」を日本の球場で初めて導入し、土壌温度や水分の管理を徹底しています。

また、スタジアムの左中間後方は「スマイルグリコパーク」と名付け、約7000人が収容可能な観客席を設けるとともに、日本の野球場で初

なる観覧車を設置しました。高さは36メートル、4人乗りゴンドラ16台を備え、1周が5分15秒で、試合も観戦できます。メリーゴランドも設置されました。観覧車、メリーゴランドの両方から試合が観戦できる球場はアメリカにも無いそうです。



楽天koboスタジアム宮城（仙台市）

ゴールデンイーグルスのことしの観客動員数は162万人と前年比4.9割増でした。来年からは「koboパーク宮城」という名称になることが決まっており、今後も多くの人が楽しめる球場づくりが進むことは間違いありません。

仙建協だより

いっあいせし

会長 河合 正広



東日本大震災から丸5年が過ぎ、嵩上げ道路を残せば、おおむねハーパー面の復旧・復興

事業はほぼ完了したことになりましたが、当協会会員のこの5年にわたる復旧・復興事業への貢献は大変大きなものがあつたと考えています。

そのような中、仙台市の普通建設事業費は2014年度をピークに毎年約20%の減少を続け、また工事の内容も建設・更新から小規模な維持・修繕・補修がメインとなるなど、地元の建設業界にとって大変厳しい経営環境を迎えています。

一方、公共工事の品質確保に不可欠な担い手の中長期的な育成・確保を主目的とした担い手三法の施行に伴い、宮城県仙台市も新たな建設産業振興に関するプランや考え方を相次いで示しております。協会そして会員ともども、行政施策の流

れを的確に把握し対応していかなければならないと考えます。

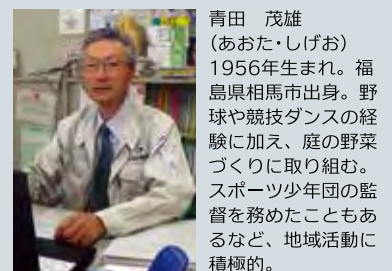
本協会の将来ビジョン研究会が取りまとめた中間報告では、会員の自助努力を基本としながら「地域における安全・安心・安定のパートナー」を目指し、お互いが支え合いながら取り組むべき四つの方向を示しています。今後は中間報告を受け、国、県、市が検討している包括的発注に対応した取り組みや、担い手育成、まちづくりなど新たな社会ニーズに合わせた具体的な検討を行って参らなければなりません。

また、昨年は「災害時における車両等の移動に関する協定」を仙台市長と締結いたしました。これを含めて仙台市とは四つの協定を締結したことになり、当協会が仙台市から大きな信頼を寄せていただいている大きな証となっております。今後もこれら協定に的確に対応できるように取り組んでいくとともに、建設業が地域社会に果たしている役割を、市民の皆さまにご理解いただけるよう、さまざまな活動を展開して参りたいと考えています。

新専務紹介

1980年に仙台市開発局に技師として入庁。その後、都市整備局や建設局、宮城野区の副区長などを歴任し、ことしから仙建協の専務理事に就任しました。就任に当たり「共通した意思を持ち、協会を挙げて行動することが重要」と、協会の重要性を強調。「東日本大震災では、会員の皆さん自身が、地域の建設業がないとまちが成り立たないと実感したと思う」と振り返りながら「そうした情報を市民の皆さんに伝えたい」と話しています。

また、宴会幹事の極意を伝授する講座も開催。『公務員は市民の幹事役』を仕事上の信条にしていたこともあり、「義務感ではなく前向きに」をモットーに、心構えと心遣いの大切さを訴えています。



青田 茂雄
 (あおた・しげお)
 1956年生まれ。福島県相馬市出身。野球や競技ダンスの経験に加え、庭の野菜づくりに取り組む。スポーツ少年団の監督を務めたこともあるなど、地域活動に積極的。

福祉施設に寄付 市内12施設に贈呈

仙台建設業協会は2月18日、毎年行っている福祉施設への寄付金の贈呈をこつしも実施しました。環境福祉委員会の委員と事務局のメンバーが、仙台市内の福祉施設12カ所に寄付金を届けて回りました。

この活動は、施設の運営に役立ててもらおうと毎年続けている事業で、今回で23回目となります。

当日は、仙台市泉区にある障がい福祉サービス事業所「はまなす苑」を、菅原博委員長、千田隆志委員、佐藤正基専務(当時)が訪問し、佐藤弘康苑長に寄付金を手渡しました。

同施設では18歳以上の知的障がい者を受け入れ、現在36人が利用しています。開所から19年を迎え、入居者の平均年齢が35歳を超えるとともに、その家族の高齢化も進んでいることが課題となりました。佐藤苑長は「いただいた寄付金は、利用者が安心して生活できるように還

元して、充実したサービスを提供したい」と謝意を示しました。

菅原委員長は「福祉施設は地域に必要不可欠。人手不足や周辺住民の理解といった課題を抱えながら活動しているため、施設努力を応援したいと考え寄付を続けています。今後の運営に役立てていただければ」と話しました。



佐藤苑長(中)に寄付金を渡す菅原委員長(右)と千田委員

河合会長を再任 16年度定時総会

仙台建設業協会は5月12日、2016年度定時総会を仙台市の江陽グランドホテルで開き、任期満了に伴う役員改選で、河合正広会長を再任しました。

河合会長は「東日本大震災から5年が過ぎ、嵩上げ道路を除けばハード面の復旧・復興事業はほぼ完了します。復興への会員の貢献は大変大きいものがありました」と述べつつ、「一方、仙台市の普通建設事業費が減少傾向にあるなど厳しい環境を迎えています。担い手確保といった課題に対し、行政施策を適確に把握しながら対応しなければなりません」と呼び掛けました。

本年度は重点事項に▽復旧・復興への貢献活動▽会員企業の技術の向上と経営の改善▽労働災害の防止と雇用改善の推進▽情報と資料の収集・伝達▽環境・福祉▽建設業の社会的使命▽関係機関・関連団体との折衝と提携▽仙建協会員の目的の達成などを設定しました。社会的使命に関しては、昨年12月に仙台市と「災害時における車両移



動に関する協定」を締結したことなどを踏まえ、協定に基づく災害応急措置協力会の活動を推進。また、将来ビジョン研究会を随時開催し、担い手育成やまちづくりといった新たな社会ニーズに合わせた活動を検討します。

このほか、事業計画として▽関係機関等と連携した担い手育成のための各種活動▽広瀬川市民運動への参加を通じた社会貢献などを盛り込みました。

役員改選では、副会長に深松組の深松努氏、中城建設の結城孝氏を再任。青田茂雄氏を専務理事に選出しました。

- 将来ビジョン・プロジェクトチーム検討会
- 木建パトロール
- 2016年度第1回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール
- 2015年度施工仙台市優良建設工事表彰
仙台建設業協会2015年度施工仙台市優良建設工事表彰
- 養鶏場埋却地立ち入り調査に参加

- 広瀬川1万人プロジェクト・第22回一斉清掃(関上海岸)参加
- 宮城県解体工事業協同組合並びに宮城県産業廃棄物協会仙台支部との協定3団体会議
- 仙台市建設工事安全衛生講習会

10月

- 2016年度安全大会
- 常任理事会・第142回理事会
- 木建パトロール
- 2016年度第2回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール

8月

- 常任理事会・第141回理事会
- 宮城県解体工事業協同組合並びに宮城県産業廃棄物協会仙台支部との協定3団体会議
- 木建パトロール
- 第2回雇用・安全管理パトロール
- 将来ビジョン研究会

9月

- 仙台労働基準監督署と仙建協労安委員・安全指導員との意見交換会
- 木建パトロール

11月

- 第29回仙建協ボウリング大会
- 木建パトロール
- 仙台労働基準監督署・仙建協建設工事安全合同パトロール

12月

- 木建パトロール

体験を通じて 魅力を伝える 仙台工高の現場実習

仙台市立仙台工業高等学校土木科生徒の産業現場実習が、6月28日から3日間の日程で行われ、仙台建設業協会からは5社が受け入れに協力しました。生徒たちはそれぞれの現場で測量や丁張りなどに挑戦し、「現場でしか学べない知識を習得したい」と熱心に取り組みました。



2年生を対象に実施している現場実習は、実践的な体験を通じて、知識・技術・技能の習得を目指し、現場で働く魅力を伝えることで将来の地域産業に貢献できる人材育成が目的です。仙建協は6日からの建築科の実習にも協力し、3社が受け入れました。

熱海建設が施工する宮城県名取市の「名取川開上11工区堤防災害復旧工事」の現場では、土木科の生徒3人を受け入れました。

生徒たちは初日、工事概要や施工管理などを学んだ上で現場に入り、自分たちで測量しながら、堤防の高さと勾配を示す丁張りに挑戦。2日目は生コンプラントや2次製品の工場を巡り、製品づくりの行程などを見学し、3日目には情報化施工にも触れ、トータルステーションによる出来形管理「TS出来形」なども経験しました。

生徒たちからは「見学会と異なり、実際に現場に入るのは緊張感を強く感じる」「学校では測量、施工など、それぞれの作業ことの授業でした。実際の現場では全てを進める必要があり難しい」といった戸惑う声が聞かれたものの、「現場でしか経験できないことを、できるだけ多く学びたい」と、前向きな姿勢で実習に臨んでいました。

現場を担当する同社工務部の岩井一工事長は「今の現場は、施工している堤防の姿が見えるので、ものを造る実感が湧きやすい状態。実際の現場に触れることで、楽しさを理解してもらえると信じています。将来を担う若い力として、経験を重ねてほしい」と期待を寄せました。

三位一体で 重大災害防止 第24回定期会議・ 安全担当者全体研修会

仙台労働基準監督署と仙台建設業協会が組織する労働災害防止連絡協議会は16日、第24回定期会議・各社安全衛生担当者全体研修会を仙台市の宮城県建設産業会館で開催しました。この中で河合正広会長は「近年、市を交えた労働局との意見交換の機会も増え、三位一体の連携が定着してきたところ。引き続き重大災害防止に努めていきます」と決意を示しました。

また、河合会長は「東日本大震災後に急増した労働災害は、近年減少傾向になっています。これは、宮城労働局が掲げる『みやぎ復旧・復興工事業ゼロ災運動』などで、意識を高めて取り組んだ結果です」と成果を強調。仙台労働基準監督署の岩瀨範好署長は「関係機関で力を合わせて防災防止に取り組んできたものの、ことしはすでに仙台管内で死亡事故になりかねない災害が発生しました。本日の研修を受け、日常の取り組みを振り返り、明日からの作業に生かしてください」と要請しました。



講演では、仙台市都市整備局技術管理室の渡部昭彦工事管理係長が、市の事故発生状況と安全対策目標について説明。昨年度の市発注工事で、転落・墜落などの建設三大災害が合計6件発生したことから、本年度の安全対策目標を昨年度に引き続き「死亡災害をゼロにし、建設三大災害を2013年度比で2割以上減少させる」に設定した

ことなどを報告。仙建協労安委員会の櫻田雄二安全指導員は、「安全パトロールの一例」を解説。パトロールの着眼点として▽不安定状態・行動を見逃さない▽重篤災害につながるものは即正す▽対話を通じて分かりやすく正しく指導する▽といったポイントを説明しました。

このほか、仙台労働基準監督署安全衛生課の塩沼貴裕安全専門官が「建設工事の労働災害防止、ハローワーク仙台事業所援助第一部門の三浦智信指導官が「建設業の人材の確保」について、それぞれ講演しました。

新しい顔ぶれ

(権利行使者変更年月日)



2016年4月1日
通信道路(株)
代表取締役 及川 顕仁

2016年4月1日
(株)橋本店
代表取締役社長 佐々木 宏明

2016年5月12日
仙台建設業協会
専務理事兼事務局長 青田 茂雄

- 仙建協内 災害応急措置協力会説明会
- 木建パトロール

5月

- 2016年度定時総会・懇親会
- 5区役所への災害応急措置協力会説明会
- 木建パトロール
- 第1回雇用・安全管理パトロール

6月

- 仙台地区木造家屋等建築工事安全委員会
- 仙台地区震災復旧・復興工事連絡会議
- 第24回定期会議並びに各社安全衛生担当者全体研修会
- 木建パトロール
- 将来ビジョン研究会
- 仙台工業高校【土木科】現場実習受け入れ(3日間)

7月

- 仙台工業高校【建築科】現場実習受け入れ(3日間)

行事報告

(平成28年4月~12月)

4月

- 常任理事会・第140回理事会
- 宮城県解体工事業協同組合並びに宮城県産業廃棄物協会仙台支部との協定3団体会議

災害ゼロへ 安全活動徹底 16年度安全大会

仙台建設業協会は10月4日、仙台市の宮城県建設産業会館で2016年度安全大会を開きました。参加した125人が、三大災害防止などの安全衛生活動徹底を誓い、災害ゼロに対する決意を新たにしました。

河合正広会長は「宮城県内の復旧・復興工事は



継続しており、まだまだ気を引き締めて取り組まなければならない状況が続く中、労災件数はことしに入って増加し、重大事故も発生しています。近年は豪雨などが相次ぎ、緊急災害工事の増加による労災発生が懸念されるため、防災防止徹底をお願いします。同時に、従業員の健康管理や職場環境改善にも努めてください」と呼び掛けました。

続いて、仙台労働基準監督署の岩瀨範好署長は上半期に起きた災害事例を紹介した上で、「仙台署管内では、一歩間違えば命に関わる事故が多数発生しています。再発防止のために、災害に関する情報を共有し、企業の壁を超えて業界一丸とならなければなりません」とあいさつしました。

仙建協労務・安全管理委員会の佐藤元一委員長は、三大災害防止を軸としつつ、交通災害の防止や労働者の健康保持増進を盛り込んだ安全の誓いを読み上げ、参加者らは安全衛生活動の徹底を固く誓いました。

その後、仙台労働基準監督署の斎藤俊英安全専門官が「最近の労働災害から見た安全衛生のコツ」と題して講演。災害事例の提示や労働安全衛生法の説明に加え、「きれい・快適・健康」な現場構築による災害防止とイメージアップを呼び掛けたほか、安全衛生研修として仙台市消防局警防部救急課の荒井勲主幹兼救急指導係長が、「労働災害発生時の応急措置」について解説しました。

街の防災サポーター

この建設現場は、大地震時に地域の救助活動を支援します。

建設業を通じて公共福祉の向上をめざす
(一社)仙台建設業協会



発行所 一般社団法人 仙台建設業協会 発行 2016年12月

STAFF ■発行人／河合正広 ■編集人／熱海義浩 ■編集スタッフ／佐藤春基・千葉正春・三浦修・青田茂雄・寺嶋美姫・小野麻子
■編集協力／建設新聞社 ■印刷・製本／建設プレス